

食物アレルギーの積極的治療

「食べて、食べられるようにする」経口免疫療法について

食物アレルギー最新治療法「経口免疫療法」

《当院での治療がテレビ紹介されました!!》

三重病院で1年半ほど前から始めている**経口免疫療法**が9月にテレビで紹介されました。

患者さんと、そのご家族の協力を得て長期密着取材された内容が、9月6日に関西テレビ(関西圏)ニュース報道番組「アンカーズアイ」、9月15日に東海テレビ(東海圏)ニュース番組「スーパーニュース」の中で『食物アレルギー“注目の最新治療法に密着取材”』と題して紹介されました。

これまで60名ほどの患者さんが治療を受けられ、全く食べられなかった食物が食べられるようになったのです。いったいどのような治療法なのか、藤澤先生にお話を聞いてみましょう。



食物アレルギーが増えている!

今、花粉症をはじめ、アレルギー疾患をもつ人が増えています。食物アレルギーも例外ではありません。なかでも、**こどもに多いのは、卵、牛乳、小麦などに対するアレルギー**です。これらの食べ物にアレルギーがあることは赤ちゃんの頃にわかりますが、たいていは大きくなるにつれてよくなって、小学校に上がる年齢までには食べられるようになります。しかし、最近では、その年齢になっても食べられない、すなわち、食べると発疹がでたり、おなか痛くなったり、ひどい時にはショック症状を起こす人が増えているのが問題になっています。

これまでの治療は?

食物アレルギーの治療は、基本的には、**症状をおこす原因食物を食べないようにする=除去食療法**です。微量でもショック症状を起こす人は調理器具も別にするなど厳密な除去が必要ですし、少しなら食べても症状がないような人はおおまかにやめておく方法にするなど、程度によって除去レベルは違いますが、い

ずれにしても「食べない」のが基本です。そして、もしも間違えて食べてしまって症状が出た時には、それを治める対症療法をします。とくにショック症状を起こすような重症の人は生命の危険もあるので、「エピペン」という自己注射の薬を常に携帯することもあります。

食物アレルギーで困ること

でも、いままでの治療はいわば「消極的」です。こどもの食物アレルギーは大きくなると治るので、自然に治るまで除去をしながら、じっと待つ、ということで、多くの場合はよいのですが、**自然に治る年齢、すなわち4~5歳を越えてもまだ食べることが出来ない人にとっては、たいへん困った問題**です。学校の給食でみんなと同じものが食べられない、友だちの家に遊びにいったときにいただくお菓子も食べられない、入っていないと思っていたのに原因食物が混入していたためひどい症状を起こして救急車を呼ぶ、…などがずっと続いてしまうのでしょうか?

新しい治療

経口免疫療法という新しい治療が数年前からヨーロッパなどで行われ、よい治療成績が報告されるようになりました。「**食べないようにする**」考えを逆転して、「**食べる**」ことを治療にします。これは、免疫メカニズムの研究が進んできた成果でもありますが、アレルギーを起こす物質=アレルゲンを身体の中に積極的に取り込むことによって、免疫反応を変えてしまおう、

